

カトリック

広島教区報

No. 57

カトリック
広島司教区
発行責任者
澤野耕司神父
編集者
山口道晴神父

広島市中区鞆町4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

世界平和記念聖堂 献堂五十周年

小教区ごとの取り組みで祝う



献堂式における本祭壇

今年「世界平和記念聖堂」献堂五十周年に当たる。この聖堂は織町教会の聖堂として使われているが、本来はカテドラル（司教座聖堂）として広島教区の母教会である。そして何よりも、世界で初めて原子爆弾



原爆で焼け残った正門

が投下された地から、世界平和を祈るために建てられた聖堂であり、平和の聖地のシンボルでもある。そこで、広島教区長・三末篤實司教は年頭の挨拶で、今年一年、教区を挙げてこ

主の復活祭を迎えて

カトリック広島司教区長 三末篤實 司教

主の復活の大祝日、心からよろこび申し上げます。キリストは、ご自分の預言の通り、十字架のご死去の後、三日目に復活され、その後弟子たちや多くの人々にお現れになって、預言の真実を証明なさいました。私たちにあって主の復活は、生きる希望であり、私たちが主の栄光の復活に与

かることができるという、キリストご自身の約束による保証でもあるのです。私たちは、「わたしの後に従いなさい」と言われたキリストのみことばを信じ、希望し、すべてを尽くしてその御跡に従わなければなりません。それは、永遠の復活のためなのです。

さて、今年「世界平和記念聖堂（広島教区カテドラル）献堂五十周年にあたります。私は新年に、この一年間を「世界平和記念聖堂献堂五十周年記念の年」と宣言いたしました。この世界平和記念聖堂は、故ラサール師のご尽力と、たくさんの方々のご協力・ご支援によって完成されました。それは、多くの戦争犠牲者、特に原爆犠牲者の慰霊と世界平和の実現を願って建てられたものです。

私たちはこの世界平和記念聖堂献堂の五十周年にあたって、みんなで祈り、建てられた目的の実現に向かって最善を尽くして参りたいと思います。広島教区のすべての人が祈り、協力一致して、記念すべき五十周年が意義あるものとなりますように希ってやみません。皆様の上に神の豊かな祝福が与えられますようにお祈りいたします。

教皇来広記念行事



広島平和公園で

の献堂五十周年を祝い、平和への祈りと活動を新たにしよう呼びかけた。そして、そのための教区としての行事は、八月五日の教区平和行事の日に記念ミサが捧げられることになった。しかし、この一年を通して、各小教区ごとに「世界平和記念聖堂」の意味を学び、世界平和のために祈り活動し、またできるだけこの聖堂に巡礼するよう司教は呼びかけている。

(関連記事三面)

全国で唯一続けられている教皇ヨハネ・パウロ二世来日記念行事が、二月二十五日、平和公園慰霊碑前での祈りと世界平和記念聖堂でのミサをもって行われた。

2005年
11月

教区シノドス開催

平和の使徒推進室長

肥塚倅司神父

三月十四日に開かれた教区宣教師司牧評議会は、二〇〇五年十一月二十三日(水)に、「教区シノドス(教区代表者会議)」(仮)を開くことを三末司教に提案し、承認されました。

これは、教区大会(二〇〇二年)、教区創立八〇周年(二〇〇三年)、世界平和記念聖堂献堂五〇周年

(二〇〇四年)と続いた動きを継続し、広島教区が福音宣教師共同体と

して使命を果たしていくための熱意を育て、取り組むべき課題を確かめるために開かれるものです。

教区宣教師司牧評議会常任委員会と三地区から選出された三名の信徒を中心にして準備が進められます。

来年へ向けて最初に提案されたのは、各小教区が自分達の現況を確認する作業

です。信徒数の推移、諸活動の確認、財政状況の把握などを通して、十年後の小教区の姿を予測することが出来ます。小教区の良いところ、見直したいところを冷静に評価することによって、課題の発見と解決の実践プログラムが明らかにされます。

福音宣教は、キリスト者の本質的な使命であること、を思い起こし、無気力と無関心を克服する必要があります。

「愛宮(ラサール)神父の足跡」

クラウス・ルーメル神父
講演会

二月二十二日、イエズス会の被爆者クラウス・ルーメル神父による「ラサール神父様の精神を学ぶ」と題した献堂五十周年記念講演会が世界平和記念聖堂で開催された。教皇来広ミサの後、三百人を前に、スライ



パソコンとプロジェクターを駆使して熱く語るルーメル神父

た。ラサール神父は、ドイツから上智大学に派遣されてきたが、大学での教鞭よりも社会活動に熱心であったこと、若くしてイエズス会の上長に任せられ、イエ

ズス会の「日本管区」を広島に移したことで、戦前の職町教会の様子、戦時中のレコード音楽会に多くの求道者が来たこと、原爆が落とされた日の夜にルーメル神父達がラサール神父を職町教会近くの縮景園から広島近郊の長束修練院まで救出したときのエピソード、「キリスト教的な座禅」を行うために神冥窟を建てられたことなど、多くの人が初めて触れるラサール神父の人となりや足跡を学ぶことが出来た。

広島司教区行事および司教予定表(2004年度上半期)

4月	4日(日) 6日(火) 7日(水) 11日(日) 29日(木)	枝の主日ミサ(カテドラル) 9:30 司教顧問会議 16:00 聖香油ミサ16:00 [15:00~教区司祭の集い] 復活の主日ミサ(カテドラル) 9:30 関助祭の司祭叙階式(カテドラル) 13:00	7月	4日(日) 6日(火) 9日(金) 11日(日) 18日(日) 25日(日)	下松教会 公式訪問・堅信会式 10:00 司教顧問会議 14:00 大阪教会管区代表者会議(大阪) 彦島教会 公式訪問と堅信式・集會司式者・聖体奉仕者任命式 9:00 細江教会 公式訪問と堅信式・集會司式者・聖体奉仕者任命式 9:00 長府教会 献堂式・公式訪問と堅信式・集會司式者任命式 10:00
5月	3日(月) 9日(日) 10日(月) 16日(日) 23日(日) 30日(日)	乙女峠まつり 東広島教会 献堂一周年記念・公式訪問・堅信式 9:00 司教顧問会議 14:00 岡山教会 公式訪問・堅信式 10:30 浜田教会 9:00 聖堂降臨の主日 職町教会 公式訪問・堅信式 9:30	8月	5日(木) 5日(木) 10日(火) 15日(日) 18日(水) 27日(金) 29日(日) 29日(日)	~6日(金) 平和行事 世界平和記念聖堂献堂50周年記念行事 19:30 ~12日(木) 教区錬成会(下関) 聖母の被昇天の祭日ミサ(カテドラル) 10:00 ナミュール・ノートルダム修道女会創立200年記念ミサ(東広島修道院) 第20回カトリック医療関連学生セミナー(山口~津和野) 開会式 13:00 岩国教会 聖堂献堂40周年記念並びに公式訪問と堅信式 9:00 ~30日(月) 司祭大会(広島カトリック会館)
6月	7日(月) 13日(日) 14日(月) 20日(日) 22日(火) 23日(水) 27日(日)	~12日(土) 教区司祭黙想会(聖フランシスコ病院修道女会黙想の家・姫路) 司教叙階記念と金銀祝(広島地区担当) ~18日(金) 定例司教総会 呉教会 公式訪問・堅信式 9:30 司教顧問会議 16:00 教区司祭評議会 10:00 三次教会(向原教会も兼ねて) 公式訪問・堅信式 9:30	9月	7日(火) 23日(木)	司教顧問会議 14:00 津山教会 献堂50周年記念ミサ・公式訪問・堅信式 10:00

教区を挙げての実行委員会立ち上げ

世界平和記念聖堂献堂五十周年の今年、各小教区ことの取り組みが最も大切なこととされているが、教区レベルの実行委員会がその土台作りをする。

一昨年末、世界平和記念聖堂献堂五十周年の教区行事の準備責任者として、三末篤實司教によって斎藤真仁神父(司教総代理)、深堀升治神父(職町教会主任)、肥塚傳司神父(平和の使徒推進室長)が任命されて責任者会が作られた。

この責任者会はとりあえず数名の信徒の協力を得て準備委員会を作り、そこで大まかな方向性の案が作られた。そして、それが昨年六月の教区宣教師評議会に諮られて承認を得、深堀升治神父を実行委員長とする実行委員会が組織された。

これは、責任者会の三名に教区事務局長と広島地区、岡山鳥取地区、山口島根地

置く。部会には広島市近郊の小教区信徒が数名ずつ入り、これが実働部隊。



大正12年当時の職町教会の門柱

部会の任務

- 一、霊性・典礼部会
五十周年を単なる行事で終わらせたくない、その想いで作られた部会である。行事の中にあるべき霊性と理念を確立し浸透させる。
- 二、平和・活動部会
聖堂建設当時の証言の収集、聖堂のスケッチ大会、平和の歌募集などを行う予定。
- 三、記念誌部会

記念誌の編纂はすぐには無理であるが、これを機に聖堂建設に関する資料や記録を整理する。
四、聖堂存続維持部会
現在の建物だけではなく、その理念を体現する聖堂・カテドラルの存続を検討。
五、総務部
庶務、会計、渉外、各部会の動きの調整、情報交換の要となる。

祈りと平和

心を一つに平和を宣べ伝える

献堂五十周年ニュースを読もう

献堂五十周年は、小教区における取組みと共に、祈りと霊性を大切にすることを司教は初めから強調している。常任委員会が発行している月刊「献堂五十周年ニュース」は、委員会の動向を伝えると共に、霊性を育むための記事も充実しており、小教区に一部配布されている。

祈りと霊性を大切にしたい

実行委員会は毎月六日を「ヒロシマ平和の日」として、小教区や家庭でキリス

霊性を育み、聖堂建設の理念を学ぶ



世界平和記念聖堂にあるラサール神父のレリーフ

また、この「ニュース」には「聖堂建設の歴史シリーズ」がある。

その中では、一九五一年聖堂建設中の現場で行われた「平和祈念祭」の様子を

伝える当時の資料もある。それは、未完成の世界平和記念聖堂に、広島市民がひざまづいて祈る姿を伝える。ラサール神父はその時の挨拶で、「世界の真の平和を得るためには、我々は地上にあるあらゆる物を超越して永遠なるものを求めなければなりません。その高い貴い信念を皆様方に根付けようと存じます。同時に世界に永久の平和を打ち立てようとするのがこの聖堂の目的である」と語っている。「ニュース」はこのような貴重な資料と共に、ルーメル神父の講演(二面参照)の書き起こし文などもある。

一粒会だより

釜山教区の助祭 広島で司祭叙階式 四月二十九日

釜山教区から広島教区に派遣されて、一昨年十月に助祭に叙階された使徒ヨハネ 標 國助祭(30才)の司祭叙階式が四月二十九日に広島司教座聖堂で行われる。司祭叙階後は観音町教会の助任司祭として働く。

釜山教区からは関助祭のほか、ヨセフ張容辰神父(33才)、使徒ヨハネ金炫(29才)が派遣されて共に日本語を勉強している。また二月にはアンドレア

金起瑩神父(30才)が派遣されてきており、岡山南教会(主任・荻喜代治神父)で生活しながら、しばらく日本語の勉強を続ける。彼らは広島教区を助けるために、そして姉妹教区の交流を深めるために派遣されてきており、日本語学習の期間の生活費(司祭給料)と学費は一粒会から出費している。

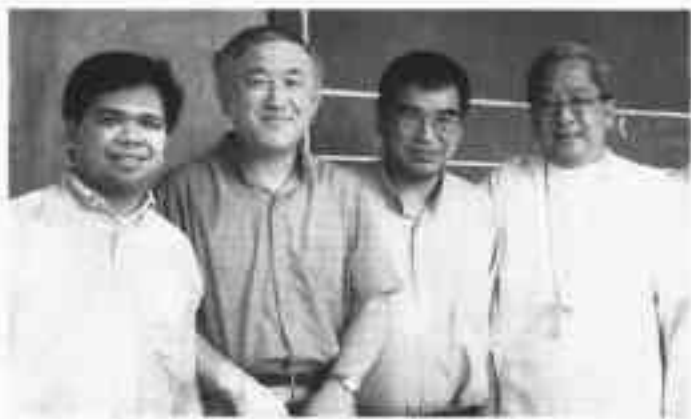
インファンタ教区を訪ねて

荻喜代治神父

二月十七日から二十一日、荻喜代治神父、野中泉神父、ギャリー神父はフィリピンのインファンタ教区を訪問した。

広島、釜山、インファンタの三つの教区は二〇〇〇年八月に広島で姉妹縁組を結び、二〇〇一年にはインファンタで、二〇〇二年には釜山で交流会を行った。

その後インファンタ教区ではラバイヤン司教がティローナ司教への教区長交代があり、音信が途絶えていた。今回は、三末篤實司教の



ティローナ司教、野中神父、荻神父、ギャリー神父

手紙を携えて訪問した。三末篤實司教は手紙で、まず二〇〇五年にインファンタと釜山の両司教を広島

に招待したいことを述べた。そして、広島教区では毎年八月の第二日曜日を「姉妹教区の日」と定めて祈ると共に、交流とインファンタ教区の支援のために献金を集めていること。交流と情報交換のためインファンタ教区でも窓口を作って欲しいこと。さらに、広島教区から中高生をインファンタ教区に訪問させて交流を深めたい意向を表明した。これに対してティローナ司教は、「この教区姉妹縁組みについては前任者からの引継ぎがなかったので知らなかった。しかし、すばらしいことである。この関係を大切にしたい」と述べた。

おめでとうございます



三月二十五日、山口カール会の創立二十五周年記念行事が行われた。記念ミサの主司式はドイツのケルン教区マイスナー枢機卿が務め、三末篤實司教をはじめ二十名の司祭が共同司式。信徒も山口教会を中心に約五十名が参加した。ケルン教区の援助による新聖堂も披露された。

岡山・鳥取地区 今年も平和の使徒として前進する

昨年、岡山・鳥取地区は地区全体で教区創立八十周年記念大会を祝い、キリストのみ顔を輝かせて、沖に漕ぎ出すことを誓い合いました。

そして、世界平和記念聖堂献堂五十周年の今年も、各小教区で平和の使徒としての働きを再確認し、充実させてゆくことにします。

まず各小教区からは、「在住外国人と共に生きる教会」(津山教会)、「教会から遠ざかっている人を訪ね、信仰の喜びを分かち合える共同体」(玉野教会)、「地域や他宗教と対話する教会」(鳥取教会)などの

テーマが挙がりました。また、広島平和巡礼を企画している教会(倉敷・水島・玉島と岡山教会)もあります。

それから、人権を丸ごと壊してしまうものが戦争ですが、小さな戦争といふべきものが差別です。長年、被差別部落問題に取り組んでこられた関亮一(倉吉教会主任)にお願いし、地区内の小教区を巡りながら、「人権と平和」のテーマで話し、人権ミサを共に捧げていただきます。

特別企画としては、高校生をインファンタ教区に派遣する計画もあります。

金祝・銀祝

おめでとうございませす!!
六月十三日、三末篤實司
教叙階のお祝を合せて、司
祭・修道者の金祝・銀祝も
祝われる。場所は広島地区
(詳細未定)

〔金祝〕

イエズス会 メディナ神父
スケット神父

〔銀祝〕

カルメル会 Sr.惣野由子
付いたる修道女会 Sr.岡 英子
援助マリア修道会 Sr.大木敦子
Sr.三藤昌子

〔司祭〕

澤野耕司神父
伊エズス会 佐々木良晴神父
シスター Sr.福永 恵
付いたる修道女会 Sr.川村佳恵子
援助マリア修道会 Sr.川村佳恵子

司祭人事異動

名前

新

旧

〔イエズス会関係〕

山根敏身神父 教区外へ
住田省悟神父 山口・島根地区長

佐々木良晴神父 周南チームミニストリー・
モデラトール

バリコエゴ神父 益田教会主任

モラーレス神父 萩教会主任

松村信也神父 周南チームミニストリー・
メンバー

三喜田虎太神父 山口教会助任・
柳井教会担当兼務

李相源神父 祇園教会助任

ラフォント神父 長束修練院付

フリン神父 山口レジデンス付

中村健三神父 山口レジデンス付

レデスマ神父 教区外へ

田丸 篤神父 教区外へ・海外研修

山口・島根地区長

周南地域チームミニストリー
モデラトール

同メンバー

山口レジデンス付

教区外から

柳井教会担当

山口教会助任

祇園教会助任

萩教会助任

益田教会主任

岡山教会協力

祇園教会助任

〔淳心会関係〕

木陰 実神父 教区外へ(2月)

ジェリー神父 教区外へ

レネ神父 岡山教会共同宣教司牧チーム
メンバー

〔教区司祭関係〕

野間重信神父 司教館付(8月)

野崎一夫神父 廿日市教会主任(8月)

瀧井英明神父 米子教会主任(8月)

後藤正史神父 岡山教会共同宣教司牧チーム
モデラトール

野中 泉神父 岡山教会共同宣教司牧チーム
メンバー・西大寺集会所在

張容辰神父 廿日市教会助任(8月)

金炫勇神父 職町教会助任

関根國神父 観音町教会助任(8月)

金起登神父 岡山南教会在、日本語研修(3月)

岡山教会協力

職町教会助任

岡山教会助任

廿日市教会主任

米子教会主任

米田

岡山教会主任

倉敷共同宣教司牧チーム
メンバー・玉島教会在

観音町教会助任

教区外から

新司祭

※異動時期の記載のないものは4月から

どんな教区よその教区 ⑪
福岡 教 区

～殉教者の心に学び、
宣教する共同体をめざす～

福岡司教区は広島司教区の西隣に位置し、福岡・佐賀・熊本三県が範囲です。小教区55、信者数約3万1千人です。カテドラルは大名町教会(福岡市中央区)です。

教区各地で、郷土の殉教者を顕彰しています。現在、列福を求めている殉教者の中に、福岡教区に関係の深い28人(八代の殉教者、ディエゴ加賀山単人(小倉)、単人の娘みやと小笠原玄也家族(熊本)、アダム荒川(天草))がいます。花岡山殉教祭(4月・花岡山殉教者墓地)、教区28名殉教者列福祈願ミサ(10月・カテドラル)、八代殉教祭(12月・八代教会)がおこなわれています。

2002年7月16日から一年にわたって司教区創立75周年を記念しました。受けた信仰の恵みを大切に、豊かにして伝えていくことができると祈りました。その間、教区の歩みをふり振り返りながら、これからの教区についてみんなで考え、語り合おうという空気が一段と強まりました。今年1月から宣教司牧評議会がスタートしました。

いま、聖体奉仕者養成への取り組みが本格化しています。教会をつくり活かす聖体に対する信仰を深め、この豊かな恵みの秘跡の奉仕者を教区共同体の中で育ていこうとしています。未来の教区のための一歩です。

希望の灯りも見え始めています。少しずつですが、青年たちの活動の輪が広がってきました。昨年の夏に開催したFYCC(青年の企画による中高生を対象にしたキャンプ)、今年2月28日・29日両日に行った『あっちこっちミサ』合宿では熱く盛り上がりました。

(福岡教区広報担当 牧山好美神父)

高校生中プロ 倉敷清心で

三月二十七日から三十日まで、倉敷清心中高等学校で高校生の大会が開かれた。テーマは「個性」。参加者は、分かち合いやスポーツ大会、発表などの多彩なプログラムの中で、「世界で一つだけの花」である自分に気づき、勇気を取り戻して新たに出発して行った。



大学生は福山で

三月二十四日から二十七日まで、福山少年自然の家で、大学生大会が開かれた。二十五名の大学生の他に、ベトナムからの神学生候補者のトオアンさんとヤンさんも参加し、「いのち」、「平和」、「家族」のテーマで分かち合い、熱く語り合った。(写真下)



全国同時に若者たちの 「あっちこっちミサ」

二月二十九日、若者たちが全国十七箇所集まり、同時刻にミサを捧げる「あっちこっちミサ」が行われた。今年で二回目。全国共通テーマは「こぎだせ」。

広島教区では、岡山教会と観音町教会の二箇所、それぞれ約三十名が集まってミサをした。



イエスと共に登山

笠岡教会主任司祭

C・スメット

よく登山をする私は、山の上から、辿って来た道を眺めるのが好きです。まだ「司祭山」という山頂にあるわけではないのですが、かなり高いところまで上がって来ましたので、この辺り

で、来た道を振り返る節目だと思っています。

私の召命のルーツは、信仰熱心な両親と、信仰豊かな村にあります。召命は生き生きとした信仰の苗床を必要とします。私はこの苗床に恵まれていました。

六十余年前の私の出身村から、私のように進学した人はまれでした。高校生の私は、司祭になることへの魅力を感じませんでした。

ところが、ちょうどその時期、高等学校の大先輩であり、淳心会の宣教師として中国に渡り、司教になっていた方が、学生に話をしてくれました。

当時、共産軍が彼の教区に攻め入って来ていました。殺される可能性を十分に予見していた司教は、「それでも、私の教区がそこにあるから、私はそこへ戻ります」と言いました。この言葉は、私の人生を変えました。

司祭生活五十年、日本における宣教生活四十九年、まさに幸せな年月でした。

宣教地に出発する前夜、アフリカから引退してきた宣教師がこう言いました。

「明日は出発だね。向こうで何をやるか、どんな教会や学校を建てるか、何人に洗礼を授けるかなど、そんなことはどうでもいいよ。どれほどの人と友人になれるか、皆と友達になれるか、大切なのはそれだよ。」

五十年の月日を振り返ると、私には日本で友人はイエス様です。主イエスが私の一番近い友人だから、他の友人がこんなになくさんいるのかもしれない。



ルーメル神父様の講演を拝聴した。八十代後半の年齢にもかかわらず、記憶力も判断力も明快。ノートパソコン、液晶プロジェクターを二つの旅行鞆に携えて来られたのには唖然とした。

一体このパワーはどこからくるのか？戦前に来日した宣教師の苦難を、私達が平凡な日常生活において経験することは困難であるとしても、師に負けぬよう、最新の機器を装備して、信仰を広く世の中に述べ伝えていきたいと感じた。(Y・K)



<42>